

ORACLE®

日本オラクル株式会社

株主の皆さまへ

平素は格別のご支援を承り、厚く御礼申し上げます。

今回の株主通信特別号では、

1. 8月24日に開催させていただきました第15回株主総会の質疑内容、
2. 配当に関するご質問への回答、
3. 12月14日～15日に開催するOOW2000へのご案内、
をご報告申し上げます。ご一読いただければ、幸いです。

目次

株主通信

OOW 2000特別号
2000年11月

1. 第15回定時株主総会のご報告	
株主総会の概況	2
Q&A報告	3～10
2. 配当関連のご質問について	11
3. オラクル・オープンワールド2000のご案内	
OOW(オラクル・オープンワールド)って何?	12
OOWの来場者は?	12
OOW2000の概要	13
OOWの歴史	13
開催スケジュール	14
OOW2000へのご招待	裏表紙

株主総会の概況

平成12年8月24日(木曜日)午前10時から、東京都千代田区のホテルニューオータニ(芙蓉の間)において、566名(役員除く)の株主の皆様のご来場をいただき、弊社の第15回定時株主総会を開催いたしました。質疑応答に先立ち、議長である弊社の佐野より、株主様からの書面による事前質問に対し回答させていただきました。(下の囲みの通り)

1. 上場後の株価低迷について

最近の株価低迷については、株主の皆様にも多大のご心配とご迷惑をおかけしており、私としても大変申し訳なく、また残念に思っております。

現在の株価動向については私も大変に不満ではありますが、業績を着実に拡大させ続けることで、必ずや株価へ反映させることができると考えています。既にIR専門部署を設けており、今後ともIR・広報活動を推進し、当社の業績と将来性を正しく理解していただけるよう努める所存です。中長期的な観点で当社を見守っていただけますよう、お願いいたします。

2. ストックオプションについて

当社にとってストックオプションは、業績向上への動機づけのみならず、優秀な人材確保(採用と引き止め策)という2つの重要な意味があり、継続的に実施していく方針です。

一方で、株式の希薄化という点では、ストックオプションの行使によって発行される株式数が発行済株式数に占める比率は非常に低い(今年度0.23%)ため、希薄化の影響は、ほとんどないものと考えています。

また、質疑応答では11名の株主様からご質問をいただき、(質疑応答を含めて)午前11時35分に閉会となりました。以下、質疑応答の内容についてご報告いたします。

* 回答した役員名を(××)という形で記載しています。

Q1 売上の順調な伸びは今後も期待できるのか？

➔ 長期にわたり、成長を続けるとまではお約束いたしかねますが、今年度は昨年度の19.9%を上回る20.2%の売上高の成長を計画しております。
(新宅)

ご参考

2001年5月期業績見通し

売上高	79,038百万円(+20%)
営業利益	24,352百万円(+22%)
経常利益	24,523百万円(+22%)
当期利益	14,027百万円(+25%)
1株当り当期利益	109.42円
1株当り配当金	80.00円

Q2 ある会社の株価が高値の50分の1になったのは、売上の水増しのようなことがあったからだと聞いている。オラクルは大丈夫か？

➔ 当社の親会社はNASDAQに上場しており、当社も売上認識に関して極めて厳しい米国の会計基準に準拠しています。また、4半期毎に親会社の内部監査を受けており、厳しいチェック体制をとっております。売上の水増しなどは全くありません。(新宅)

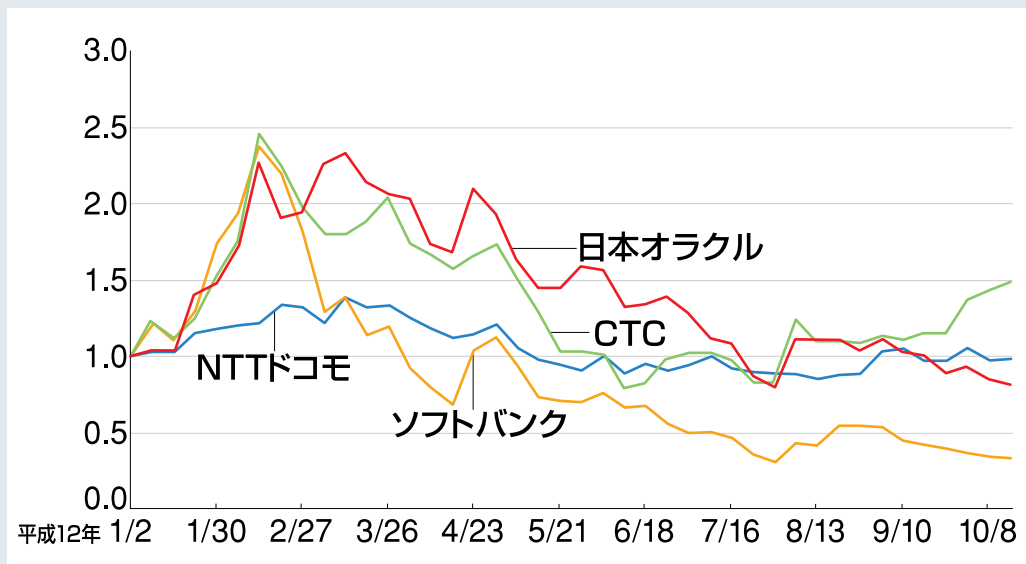


佐野CEO

Q3 公募・売出価格の決定はどのように行ったのか？

➔ 東証の上場基準を満たすための公募・売出しを2000年の4月に行いました。手続きは、監督官庁および幹事証券会社の指導の下、ブックビルディング方式により公募・売出価格の決定を行いました。証券取引法などに準拠した適正なものであったと理解しております。
(南野)

ご参考 IT関連企業の株価指数推移



(注) 2000年の年初株価を1.0とした週足の株価指数、試算には分割修正後の株価を使用しました。

この公募・売出価格の決定に関しまして「価格設定が間違っていたのではないか」というご指摘を多数いただいております。ご存知の通り、ブックビルディング方式による価格決定は、市場価格を基準にして、需要により割引率を決定するものであり、当社が都合のいいように価格を設定できるものではありません。

業界他社との株価推移比較(上図)で見ても、公募・売出しに向けて当社の株価だけが高めになっていたという事実はないことがわかりいただけると思います。

Q4 貸借対照表を見ると、資本準備金は335億円を超えている。これは、株主の持ち分である。これを株式分割の原資としないのか？

➔ 分割については、今期、来期の業績動向を見ながら、適正な時期に検討してまいります。(南野)

ご参考 株式分割につきましては、「より大型の株式分割をすべきである」という多くのご指摘をいただいております。ただ、前回の株主通信にも記載させていただいた通り、株式分割には以下の様な法的な制限が存在しています。

- ① 分割前後で各株主の持分割合に変化を生じさせないこと
- ② 「分割後の発行済株式数」 「授権株式数」
- ③ 「額面金額×分割後の発行済株式数」 「資本金」
- ④ 「分割後の1単位当り純資産額」 「5万円」

平成12年5月期には、どの程度の分割が可能であったのかを以下で試算してみます。

- ① 2000年5月末日時点の株主の皆様全員を対象に、7月19日に株式分割を実施いたしました。
- ② 条件からは、株式分割は1 3.1まで可能
- ③ 条件からは、株式分割は1 5.1まで可能
- ④ 平成12年5月末の1株当り純資産額は813.28円なので、
1単位 100株 当り純資産額は813.28円×100株 = 8万1,328円、
8万1,328円÷5万円 = 1.6 従って1 1.6が限界。

これらの基準は、すべて満たさなくてはならないので、分割できる限界は1 1.6となります。決算確定前に確実に実施可能と考えられる水準として1.5の分割を発表し、実施いたしました。

Q5 公募後、株券が手元に届くまでに半値になった。 経営責任はないのか？

➔ 責任は重く受け止めております。当社としては、株価を回復させるよう、一生懸命に業績を伸ばすことで、株主の皆様のご期待にお応えしたいと考えております。(佐野)

➔ 公募・売価格後の株価低迷については誠に申し訳なく思っており、業績拡大に向けてがんばる所存です。(新宅)

Q6 米国オラクルのPERと比べ、日本オラクルのPERは 高すぎる。おかしいのでは？

➔ 日本市場と米国市場の市場特性の差であり、日本市場におけるPERは全体的に、また歴史的にも高い傾向があります。また、IT市場自体の状況も日米では異なっていることも要因と考えております。(南野)

ご参考 PER(株価収益率)=株価÷1株当り当期利益

Q7 オラクルには開かれた総会を 期待していた。それなのに、 役員は雛壇の上、 後ろの役員は顔も見えない。

➔ ありがとうございます。貴重なご意見として、今後は工夫したいと思えます。(佐野)



新宅COO

Q8 貸借対照表を見ると、有価証券が180億円とあるが、
どんな投資を行っているのか？

➡ 中身は、MMFや公社債投信であり、リスクの低いものです。(南野)

ご参考 180億円の内訳は、以下の通りです。

- ・ MMF：80億円、中期国債ファンド：20億円
- ・ スーパー・トラストスリー：50億円
- ・ ガリレオ・アルファ 99 - 06：30億円



南野CFO

Q9 10年後の成長を考えたとき、
日本オラクルは上位の10社に入る
企業と考えている。
株価については、短期的には
どうしようもないと思っているが、
剰余金等で何か株主への
還元ができないのか？

➡ 様々な検討は進めておりますが、今は、妙案がありません。もうすこし、お待ちください。(佐野)

Q10 日本オラクル流の総会を楽しみにしてきたのに社員やガードマンが目につきすぎる。株主への対応を工夫してもらいたい。SONYが最も良い。

➔ 貴重なご意見をありがとうございます。開かれた総会の実施に向けて、来年はもっと工夫します。(佐野)

Q11 オラクルに期待しています。配当金という形で株主還元を考えていただきたい。

➔ 今後も業績を反映した適正な配当を行ってまいります。(南野)

ご参考 平成12年5月期における当社の1株当たり利益は131.08円です。一方で、1株当たり配当金は、中間配当が25円と期末配当が70円で、合計95円の年間配当を行っており、当社の利益の約73%は、配当金に充てている計算になります。この比率(配当性向)は日本企業においては、かなり高い水準であり、今後は利益の拡大ペースに合わせた増配を進めていく方針です。

Q12 新社屋購入という話が出たが、株主がこんな状態なのに新社屋を購入し、社員にはストックオプションを与える。会長として、どう考えているのか。

➔ 公募資金の資金使途としては、Eビジネス関連企業への投資も考えておりますが、とにかく現在は高い家賃をなんとかしたいと考えております。今後も従業員をどんどん増やすこともあり、オフィスは非常に重要な課題です。新社屋は400億円くらいを念頭においております。これにより家賃の減少による利益増が見込まれ、株価の上昇要因にもなると考えております。(佐野)

ご参考 生産設備を持たない当社にとって、最大の資産は人材であり、当社が将来的に競争力を強化するうえでも人材の確保は最大のポイントです。新社屋は、より働きやすい環境を作るという意味で重要な意味を持っており、さらに人員の増加に伴って分散してきた東京のオフィスを統合することで、業務連携の円滑化も図れ、加えて、年間10億円程度のコストダウンに繋がると見込んでいます。ストックオプションに関しても、優秀な人材を確保するという意味で強力な武器になると考えており、今後も継続的に実施していく方針です。

Q13 役員の任期を1年に短縮すると、短すぎて、責任感が稀薄になるのではないかと。

➔ IT業界は非常に変化が激しいため、任期が2年というのは長すぎます。1年で実績を挙げられない者は、2年やってもだめだと考えています。ただし、納得できる事情があれば考慮しますので、マイナス面はないと考えています。(佐野)



Q14 定款の第5条(発行する株式の総数)を変更しようだが、株式発行の具体的な計画があるのか。

➔ 現状では、具体的な計画はありません。今後、株式分割を機動的に行うための変更です。(南野)

Q15 親会社が70%以上の株を持っていて日本オラクルは独自性を保てるのか。「日本の会社になる」と言っているが、持続できるのか。

➔ 「日本の会社になる」のは当社の基本的な経営理念です。オラクルグループの中で日本オラクルは最も高い利益率を維持しており、ジャパンモデルとして極めて高い評価を得ています。米国のエリソン会長は「日本の市場はよくわからないので、日本のことは日本にまかせる」と言っています。実際、日本が承認を求めてエリソン会長がNOと言ったことは一度もありません。(佐野)

Q16 議長ばかりが答えているが、後継者は育っているのか。

➔ 株主の皆様にもわざわざ来ていただいているのだから「トップ自らが答えるべきだ」と考えて、私が答えています。自分の意見を持った執行役員などの若手が育ってきています。後継者については、何の心配もないと考えています。(佐野)

配当関連の ご質問について

8月24日に配当通知を送らせていただいた後、配当金に関する多数のご質問がありましたので、それらにお答えいたします。

Q 株式分割によって増えた株式の配当が来ない!

A 今回の株式分割は、5月末日の株主様が所有されている株式1株を1.5株とするもので、7月19日付けで行いました。8月に実施した配当は前期(平成12年5月期)の利益についての期末配当ですので、分割により増加した株式は対象となっておりません。分割により増加した株式は今期(平成13年5月期)から配当の対象となります。

Q 配当95円だと聞いていたが、70円しか来ない!

A 1株当たり95円の年間配当金は、中間配当金25円と期末配当金70円の合計です。中間配当金は11月末時点の株主様に対し、また期末配当金は5月末時点の株主様に対して、それぞれお支払いいたします。従って、今回お手元に届いたのは1株当たり70円の期末配当金です。

Q 配当の引換え期間を過ぎてしまった!

A 当社の証券管理業務を代行している東洋信託銀行の証券代行部にご連絡いただき、手続きをしていただければ、配当金を受け取ることができます。

ご連絡先：東洋信託銀行株式会社

証券代行部 (TEL:03-5683-5111)

オラクル・オープンワールド 2000のご案内

OOWって何？

オラクル・オープンワールド(OOW)は、IT業界最大の単独企業によるイベントであり、今年も10月1～5日の米国サンフランシスコでの開催を皮切りに、世界各国で開催されます。日本では、2000年12月14～15日に東京ドームを中心とした東京ドームシティにて開催します。



OOWの来場者は？

IT業務を推進される方はもちろん、企業の経営者、企業内ユーザー、一般ユーザー、すべてのビジネスマン・ビジネスウーマンにアプローチできるイベントがOOWです。また、オラクルの製品群・サービスのみならず、IT業界全般の動向を知っていただく機会として株主の皆様および証券関係の皆様にもご案内させていただきます。

特に、株主の皆様につきましては、

1. この株主通信に添付しました葉書に、ご来場予定の方々全員のお名前を記入後、当社宛に11月30日迄にご送付いただき、
2. ご来場の際にこの株主通信を入場窓口にご提示いただくことで、(株主様ご本人を含め5名様まで)無料でご入場いただけるように準備いたしましたので、ぜひ、当社およびIT業界の動向を知っていただく良い機会としてご利用いただければと考えております。5名様を超えますと、超えた人数分について各1名様2,000円の入場料をいただくこととなります。ご了承くださいようお願いいたします。

オラクル・オープンワールド 2000のご案内

OOW 2000の概要

会期：2000年12月14日(木)～15日(金)

会場：東京ドームシティ(裏表紙参照)

主催：日本オラクル株式会社

来場者数：10万人以上(予定)

入場料：2,000円(株主様に限りご本人様含め5名様まで無料)

参加企業：日本ヒューレット・パッカード、サン・マイクロシステムズ、日立製作所、
東芝、インテル、コンピュータ・アソシエイツ、シスコシステムズ、
コンパックコンピュータ、イーエムシージャパン、NEC、富士通、他、約160社



OOWの歴史

1994年	パシフィコ横浜にて(2日間)開催	入場者数 71,000名
1995年	パシフィコ横浜にて(2日間)開催	入場者数 64,900名
1996年	幕張メッセにて(3日間)開催	入場者数 141,820名
1997年	東京ビッグサイトにて(2日間)開催	入場者数 108,484名
1998年	東京ビッグサイトにて(2日間)開催	入場者数 95,754名
1999年	2000年問題対応のため開催せず	

開催スケジュール



12月14日(木) 開催時間： 9:30~21:00
展示会：10:00~17:30(東京ドーム)
基調講演：18:00~19:30(東京ドーム)

12月15日(金) 開催時間： 9:30~19:30
展示会： 9:30~19:00(東京ドーム)
高嶋秀武氏によるオラクルセミナー：
15:00~16:30(ドームホテル「天空」)

株主の皆様向けイベントとして、ニッポン放送「お早よう! 中年探偵団(月~金・朝6時~8時30分)でおなじみの高嶋秀武さんによるわかりやすいオラクルセミナーを開催する予定です。



高嶋 秀武さん

庶民感覚とお茶の間の実感を持ちながら問題に鋭く切り込む司会ぶりが人気。ニッポン放送の「お早よう! 中年探偵団」では政治・経済問題に対しても、既成概念にとられない発想と切り口で迫り、分かりやすく聞かせるスタイルには定評があります。

東京ドーム内に株主の皆様専用の休憩所「株主ラウンジ」をご用意いたしております。
また、株主ラウンジでも協賛企業によるミニセミナー(インターネット入門講座、株式市況解説講座)をご用意いたしております。(別紙参照)

株主の皆さまへ～OOW2000へのご招待

.....

OOW2000にご来場いただく場合は、同封の葉書で11月30日迄にお申し込みいただき、**この株主通信をこのままお持ちください。**

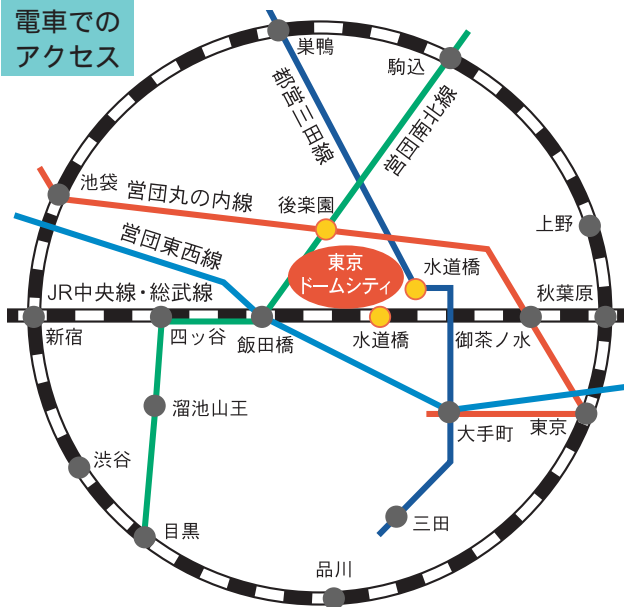
(この株主通信が入場券の代わりとなります)

株主ご本人様を含め、5名様まで無料でご入場いただけます。

5名様を超えますと、超えた人数分について

1名様当たり2,000円の入場料となりますのでご注意ください。

電車でのアクセス



最寄り駅

JR中央線・総武線<水道橋駅>

都営地下鉄三田線<水道橋駅>

営団地下鉄丸ノ内線<後楽園駅>

営団地下鉄南北線<後楽園駅>

*いずれの駅からも
下車すぐです。

主要ターミナル駅からの所要時間

東京駅 - 約6分 (JR線) 約8分 (丸ノ内線)

上野駅 - 約9分 (JR線)

新宿駅 - 約14分 (JR線)

池袋駅 - 約7分 (丸ノ内線) *乗り換え時間は含みません。

空港からの所要時間

東京国際空港 (羽田) 約40分

新東京国際空港 (成田) 約70分

日本オラクル株式会社

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4番1号 管理本部 IR・企画管理部

ホームページアドレス <http://www.oracle.co.jp>

株主通信のバックナンバーをご覧になりたい方は、当社ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。